巻頭鼎談

士業と思想の二つの世界の横断を試みる“上流工程”での活動

古澤大輔［リライト］
×
岡部修三［upsetters architects］
×
千葉元生［ツバメアーキテクツ］

古澤大輔

岡部修三

千葉元生

〝上流工程〟に関わるのは仕事を取るための工夫？

――本書では、建築や都市の領域において、企画やリサーチ、コンサルティングなど一般的には〝上流工程〟と呼ばれる領域でも活躍されている建築家やクリエイター、ベンチャー起業家にインタビューを行いました。このような活動が活発になった理由としてどのような背景があるのでしょうか。まずみなさんの活動を紹介いただきながら、議論をお願いします。

千葉　ツバメアーキテクツはDESIGNとLABという二つの部門を設けています。DESIGNでは建築や家具の設計を、LABではリサーチやコンサルティング業務を行なっていて、それぞれ空間構成と社会構築を扱う部門として位置づけています。

DESIGNが一つのプロジェクトを掘り下げていくタテ方向の思考だとすると、LABはそれらのプロジェクトを横断的に考えて、思想的な背景をつくったり研究をするヨコ方向の思考だと考えています。この二つの部門を連動させて活動を行うことで、業務を請け負う建築士としての役割と、イデオロギーを唱える建築家としての役割を両立させることをイメージしています。

岡部　upsetters architectsは建築、インテリア、プロダクト等を対象としたデザインチームと、なぜ、何を、どのようにつくり、いかに運用すべきかといったことを考えるストラテジチームによって構成されています。この二つのチームで役割を分けながら、クライアントのパートナーとして、包括的かつ長期的にプロジェクトに関わり、ビジョ